

## 数学2B 第12回（正定値行列）

2019年12月24日（火）

担当：南 美穂子 (mminami@math.keio.ac.jp)

### 8.2 行列の三角化，実対称行列の対角化，正定値行列

#### 演習問題

「宿題」と書かれた演習問題の答えをOCR対応用紙に記し，次回の講義時に提出しなさい

問題 12-1. 次の実対称行列について，正定値，負定値，いずれでもない，のどれに該当するか判定しなさい．

$$(1) \begin{bmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{bmatrix}, \quad (2) \begin{bmatrix} 3 & -1 & -1 \\ -1 & 1 & -1 \\ -1 & -1 & 3 \end{bmatrix}, \quad (3) \begin{bmatrix} -1 & m & 0 \\ m & -2 & m \\ 0 & m & -3 \end{bmatrix}$$

問題 12-2.  $A$  を  $n$  次実対称行列とする．このとき，以下が成立することを示しなさい．  
なお，(1) は任意の正方行列に対して成り立つが，実対称行列に関する定理 8.2.5. を用いて示してほしい．

(1)  $A$  の固有値を  $\lambda_1, \dots, \lambda_n$  とすると， $\prod_{i=1}^n \lambda_i = \det A$  となる．

(2)  $A$  が正定値または負定値ならば，正則である．

問題 12-3(宿題). 任意の  $\boldsymbol{x} = {}^t[x_1, x_2, x_3] \in \mathbb{R}^3$  に対して，3 次実対称行列  $A$  が

$${}^t\boldsymbol{x}A\boldsymbol{x} = (\alpha + 1)x_1^2 + (\alpha - 1)x_2^2 + \alpha x_3^2 + 2\alpha x_1x_3 + 2x_2x_3$$

を満たすように定められているとする．このとき， $A$  は，正定値，負定値，いずれでもない，のどれに該当するか ( $\alpha$  の値に応じて) 判定しなさい．

### 第11回宿題の解答例

問題 11-2.  $A$  に対する固有多項式は，

$$\begin{aligned} f_A(\lambda) = \det(\lambda I - A) &= \begin{vmatrix} \lambda - 3 & -1 & -1 \\ -2 & \lambda - 4 & -2 \\ -1 & -1 & \lambda - 3 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} \lambda - 6 & \lambda - 6 & \lambda - 6 \\ -2 & \lambda - 4 & -2 \\ -1 & -1 & \lambda - 3 \end{vmatrix} \\ &= (\lambda - 6) \begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & \lambda - 2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda - 2 \end{vmatrix} = (\lambda - 2)^2(\lambda - 6) \end{aligned}$$

よって固有値は  $\lambda_1 = 2$  (重複度 2)，および， $\lambda_2 = 6$  である．

固有値  $\lambda_1 = 2$  に対する固有ベクトルは  $(2I - A)\mathbf{x} = \mathbf{0}$  の非自明解  $\mathbf{x}$  であり,

$$2I - A = \begin{bmatrix} -1 & -1 & -1 \\ -2 & -2 & -2 \\ -1 & -1 & -1 \end{bmatrix} \Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

であるから,  $x_1 = c_1, x_2 = c_2$  と置いて固有ベクトルは,

$$\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ -x_1 - x_2 \end{bmatrix} = c_1 \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{bmatrix} + c_2 \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{bmatrix} \quad (\text{ただし } c_1, c_2 \text{ は複素数で, 少なくともどちらかは } 0 \text{ でない})$$

と表せる. よって,  $\lambda_1 = 2$  に対する固有空間 ( $\lambda_1 = 2$  に対する固有ベクトル全てに零ベクトルを加えた集合) を  $W_{\lambda_1}$  とすると,

$$W_{\lambda_1} = \text{Span} \left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{bmatrix} \right\}$$

である. また, 2つのベクトル (固有ベクトル) は明らかに 1 次独立である. ゆえに,  $\dim W_{\lambda_1} = 2 = \text{重複度}$  となるから, 定理 8.1.12. より対角化可能となる.

また, 固有値  $\lambda_2 = 6$  に対する固有ベクトルは

$$c_3 \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (\text{ただし } c_3 \text{ は } 0 \text{ でない複素数})$$

となる. よって, 固有ベクトル

$$\mathbf{p}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{p}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{p}_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix}$$

を選び,

$$P = [\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3] = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \\ -1 & -1 & 1 \end{bmatrix}$$

と定めると,

$$P^{-1} = \frac{1}{4} \begin{bmatrix} 3 & -1 & -1 \\ -2 & 2 & -2 \\ 1 & 1 & 1 \end{bmatrix} \quad \text{であり,} \quad P^{-1}AP = \begin{bmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 6 \end{bmatrix}$$

と対角化できる. □

その他の問題の解答は keio.jp の授業支援の HP にアップロードします。

## その他の問題の略解

問題 11-1. (1) 固有値はそれぞれ  $\lambda_1 = -1, \lambda_2 = \frac{1+\sqrt{3}i}{2}, \lambda_3 = \frac{1-\sqrt{3}i}{2}$  となるから, 対角化可能である.  $\delta = \frac{1+\sqrt{3}i}{2}$  と置く. このとき,  $\lambda_2 = \delta, \lambda_3 = -\delta^2, \delta - \delta^2 = 1$  であることに注意すると, 固有値  $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$  の各々に対する固有ベクトル  $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3$  は,

$$\mathbf{p}_1 = c_1 \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \end{bmatrix}, \mathbf{p}_2 = c_2 \begin{bmatrix} \delta^2 \\ \delta \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{p}_3 = c_3 \begin{bmatrix} -\delta \\ -\delta^2 \\ 1 \end{bmatrix}, c_1, c_2, c_3 \text{ は } 0 \text{ でない複素数}$$

である.  $P = \begin{bmatrix} 1 & \delta^2 & -\delta \\ -1 & \delta & -\delta^2 \\ -1 & 1 & 1 \end{bmatrix}$  と定めると,  $P^{-1} = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 \\ \frac{1}{1+\delta} & -\frac{\delta}{1+\delta} & 1 \\ \frac{\delta}{1+\delta} & -\frac{1}{1+\delta} & 1 \end{bmatrix}$  であり,

$$P^{-1}AP = \begin{bmatrix} -1 & 0 & 0 \\ 0 & \delta & 0 \\ 0 & 0 & -\delta^2 \end{bmatrix} \text{ と対角化できる.}$$

□

(2) 固有値は  $\lambda_1 = 1$  (重複度 2) または  $\lambda_2 = -1$  である. 固有値  $\lambda_1 = 1$  に対する固有空間を  $W_{\lambda_1}$  とすると,

$$W_{\lambda_1} = \text{Span} \left\{ \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 3 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \right\}$$

と表せ, 2つのベクトル (固有ベクトル) は 1 次独立である. ゆえに,  $\dim W_{\lambda_1} = \text{重複度} (= 2)$  であるから, 対角化可能である. また, 固有値  $\lambda_2 = -1$  に対する固有ベクトル

は,  $c_2 \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$  ( $c_1$  は 0 ではない複素数) である.  $P = \begin{bmatrix} -1 & 3 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix}$  と定めると,

$$P^{-1} = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} 1 & 3 & -3 \\ 1 & 1 & -1 \\ -1 & -1 & 3 \end{bmatrix} \text{ であり, } P^{-1}AP = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & -1 \end{bmatrix} \text{ と対角化できる.}$$

□

(3) 固有値は  $\lambda_1 = 2$  (重複度 2) または  $\lambda_2 = 1$  である. 固有値  $\lambda_1 = 2$  に対する固有空間を  $W_{\lambda_1}$  とすると,

$$W_{\lambda_1} = \text{Span} \left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \right\}$$

となる. よって  $\dim W_{\lambda_1} = 1 < \text{重複度}$  であるから, 対角化できない.

□

(4) 固有値は  $\lambda_1 = 1$  (重複度 3) である. 固有値  $\lambda_1 = 1$  に対する固有空間を  $W_{\lambda_1}$  とすると,

$$W_{\lambda_1} = \text{Span} \left\{ \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \right\}$$

となる. よって  $\dim W_{\lambda_1} = 1 < \text{重複度}$  であるから, 対角化できない.

□

(5) 固有値は  $\lambda_1 = 1$  (重複度 2) または  $\lambda_2 = 2$  である. 固有値  $\lambda_1 = 1$  に対する固有空間を  $W_{\lambda_1}$  とすると,

$$W_{\lambda_1} = \text{Span} \left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{bmatrix} \right\}$$

と表せ, 2つのベクトル (固有ベクトル) は 1 次独立である. ゆえに,  $\dim W_{\lambda_1} = \text{重複度} (=$

2) であるから, 対角化可能である. また, 固有値  $\lambda_2 = 2$  に対する固有ベクトルは,  $c_2 \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}$

( $c_1$  は 0 ではない複素数) である.  $P = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ -1 & -1 & 0 \end{bmatrix}$  と定めると,  $P^{-1} = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ -1 & 0 & -1 \\ 1 & 1 & 1 \end{bmatrix}$

であり,  $P^{-1}AP = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{bmatrix}$  と対角化できる. □

(6) 固有値は  $\lambda_1 = 0$  (重複度 2),  $\lambda_2 = 2$  または  $\lambda_3 = 4$  となる. 固有値  $\lambda_1 = 0$  に対する固有空間を  $W_{\lambda_1}$  とすると,

$$W_{\lambda_1} = \text{Span} \left\{ \begin{bmatrix} -2 \\ -1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} \right\}$$

となる. よって  $\dim W_{\lambda_1} = 1 < \text{重複度}$  となるから, 対角化できない. □